

が主流となっている。しかし、森林遺伝子資源の保全においては、その個体が巨大であること、種子などからの個体再生に長年月を要すること、さらには種子の長期保存法の確立されていないものが多いこと、などの理由から、それらが生育している生態系そのものをそっくり保存する生態保存（現地保存）を原則としている。この保全地域および規模といった保全区域のゾーニングのための設計基準を決める上で、種がもつ遺伝的変異、地域集団間にみられる分化、各集団の遺伝的多様性などに関する豊富な基礎情報が要求される。

一方、地球上の森林面積の約半分を占めていた熱帯林が、近年大規模かつ急速に消失しており、地球環境の保全上からも熱帯林の保護が大きな世界的課題となってきた。こうした熱帯林を適切に保全し、またその再生を図ってゆく上で生態学的な知識とともに、熱帯林生態系の遺伝的な内部構造などに関する知識は不可欠である。

ブルネイの熱帯林は、この国が経済的に豊かなこともあり、これまでに大規模な破壊は受けていない。このため手近かなところに天然林が保存されており、研究調査のための天然林へのアプローチがきわめて容易なこともあって、JICA プロジェクトの研究チームを中心に精力的な研究が行われてきた。このプロジェクトでは前述したような観点から熱帯林の遺伝学的な研究の必要性をいち早く認め、これに着手してきたが、まだ日も浅く、得られた情報量も少ない。今後、この分野に興味をもつ多くの研究者が研究する上で恵まれたこのフィールドを活用することにより、熱帯林に関する多くの遺伝学的な知見が集積されるものと思われる。

---

## 新刊紹介

◎熱帯多雨林の管理 —生態的指針— (D. POORE and J. SAYER : The Management of Tropical Moist Forest Lands —Ecological Guidelines—, 63 pp. (1987), 発行所 IUCN)

本書の構成は以下の11篇からなっている。はじめに、政府政策、土地配置、開発への生態的強制、森林保護と環境保護、木材のための森林、農業のための森林、森林のインフラストラクチャー、河川システムと湿地帯、害虫の管理、特筆すべき点。

副題に生態的指針とあるように、各論の中で、それぞれの背景が述べられ、管理のためのガイドラインが示されている。熱帯多雨林管理のための概略の方針、問題点などに重点がおかれており、熱帯多雨林の管理を志す人、初めて学ぶ学生のための基本的入門書として、一読の価値がある一書であろう。(田中正道)